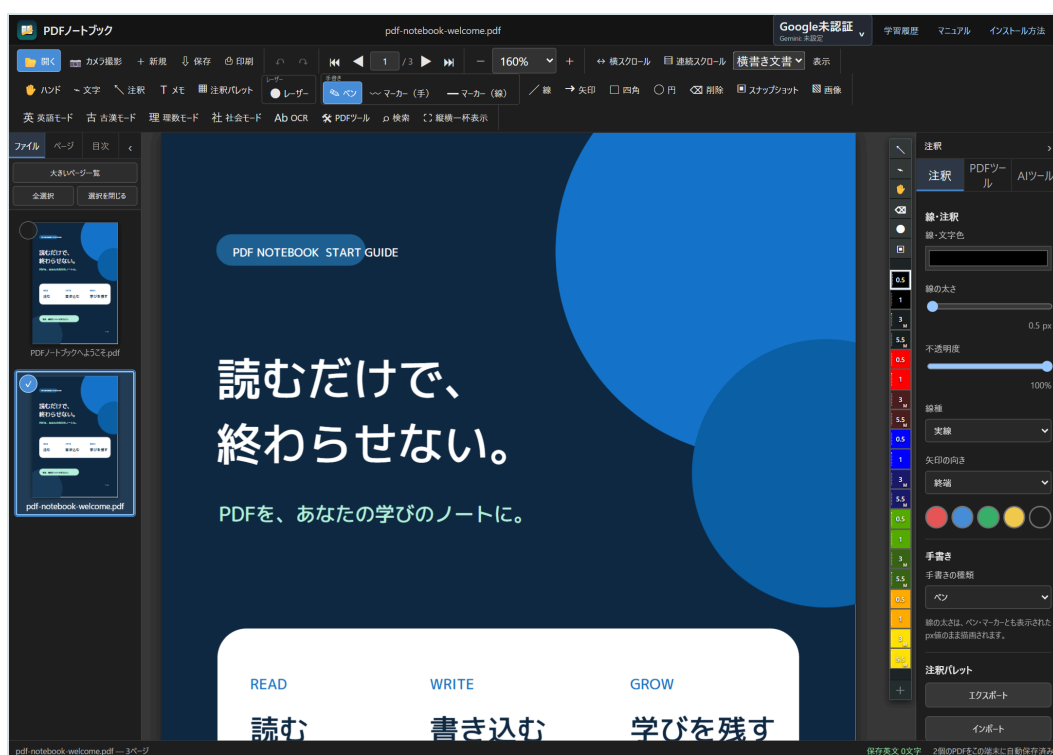


PDFノートブック

読む、書き込む、学びを残す

基本の閲覧・注釈から、ページ編集、OCR、英語・国語・理数・社会の学習まで。目的ごとに使える詳しい操作ガイドです。



実際のアプリ画面。掲載例の教材・氏名・得点・日程は操作説明用です。

ユーザーズ・オペレーションマニュアル

画面を見ながら進める手順 / 保存と再開 / 困ったときの対処

CONTENTS

目的から探す

初めての方は最初から。操作中に必要な項目へ進んでください。

PDFを開いて、書き込みを保存する	3	画面の各部分を知る	4
PDF・画像・白紙ノートを開く	5	ページ移動・拡大・表示方向	6
検索・目次・リンクを使う	7	ペン・マーカー・図形で書く	8
書き込みの見た目を確認する	9	メモを入力・編集する	10
注釈を移動・拡大・まとめる	11	注釈パレットを自分用に整える	12
写真・画像・紙の書類を取り込む	13	範囲を画像として取り出す	14
ページ一覧から目的のページを探す	15	ページを並べ替え・コピーする	16
PDFツールの入口と出力	17	結合・分割・集約を使う	18
余白・用紙・傾き・見開きを整える	19	OCRで文字を検索可能にする	21
一括OCR・変換ツールを使う	22	英語モードで読む・調べる	23
辞書の語義と品詞を読み分ける	24	Google認証とモデルを準備する	25
国語モードで古文・漢文を読む	26	国語の文章保存・Sheet・PDF化	27
理数・社会モードで考える	28	ヒント・助言・学習メモを使う	29
学習履歴と他アプリへの受け渡し	30	完成版を保存・印刷する	31
自動復元と端末内データを管理する	32	キー操作とタッチ操作の早見表	33
困ったときの確認順	34	毎日の起動・更新・終了	35
AI処理の進み具合と再実行	36	リリースノート	37

この本の使い方

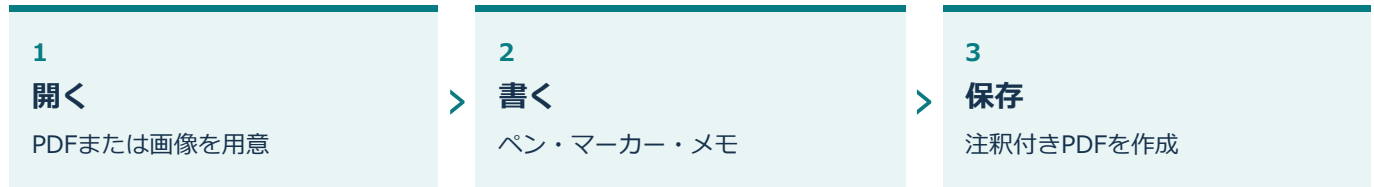
目次の項目はクリックできます。画面例はPC表示が中心です。画面の幅や端末によってボタンの折り返し・位置が変わるため、説明にあるボタン名を目印にしてください。

番号付きの手順は上から順に操作します。青緑の図は操作の流れ、表は機能や保存方法の違い、黄色の欄は確認ポイントを示します。

01 / PDFノートブック

PDFを開いて、書き込みを保存する

最初は1ページの書き込みと保存を試すと、基本操作が分かります。



1 「開く」でPDFを選ぶ

PDFを画面へドラッグ&ドロップしても開けます。パスワードを求められたら入力します。

2 見やすい大きさにする

上部の倍率欄で「幅一杯」または「ページ全体」を選びます。

3 1か所に書き込む

「ペン」を選んで線を引くか、「メモ」を選んで紙面を押し、短いメモを入力します。

4 「保存」を押す

注釈や画像を反映したPDFを保存します。保存先とファイル名を確認し、完了を待ちます。

5 保存したPDFを確認する

保存したファイルを開き、書き込みが入っていることを確認します。

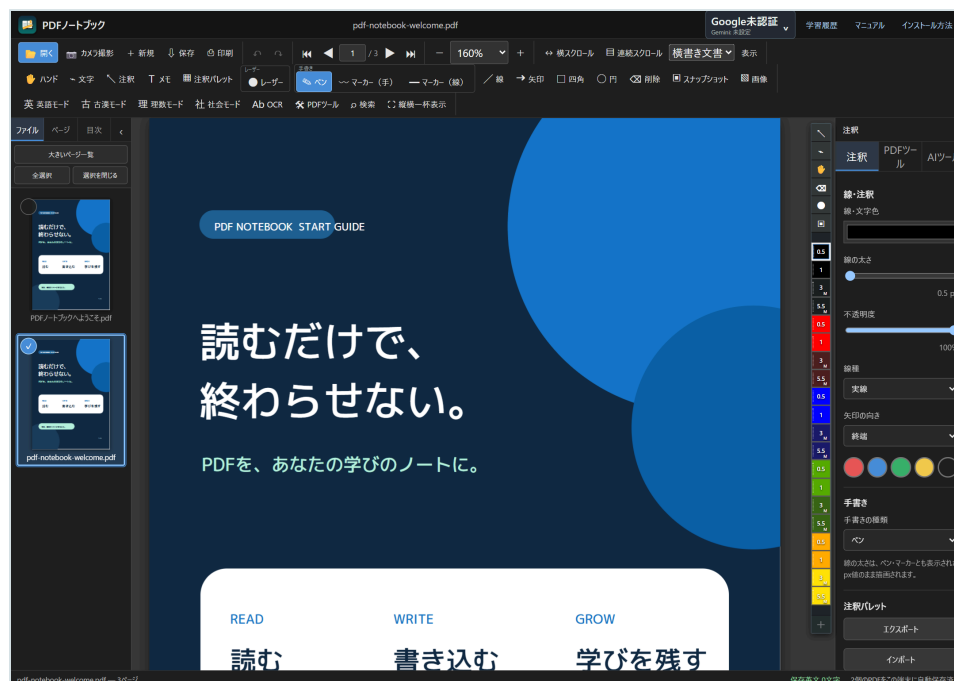
最初に覚えてたい区別

端末内の自動復元は、次回も作業を続けるためのものです。提出・共有・保管する完成版は、上部の「保存」でPDFファイルとして残します。

02 / PDFノートブック

画面の各部分を知る

中央の紙面、左右のパネル、上部の道具を使い分けます。



実画面：PDFを開いた状態。上部のツール名と、左右パネルのタブが操作の目印です。

場所	役割
上部のPDFタブ	開いているPDFを切り替える。×で閉じる。
上部ツールバー	開く・保存・印刷、ページ移動、倍率、手書き、OCR、各学習モード。
左パネル	「ファイル」「ページ」「目次」を切り替え、PDFやページを探す。
中央の紙面	文字を読む、範囲を選ぶ、注釈を書く。
右パネル	「注釈」「PDFツール」「AIツール」。選んだ操作の設定をする。
右側の細いパレット	よく使うペン・マーカーと選択ツールを素早く選ぶ。

パネルが閉じた場合

左端の「ページ >」、右端の「< 注釈」で開けます。マウスを画面左端から20px以内へ動かすと左パネルを表示し、外へ動かすと自動で閉じる操作も使えます。

03 / PDFノートブック

PDF・画像・白紙ノートを開く

教材の形式に合わせて入口を選びます。

用意したもの	操作	結果
PDF	「開く」またはドラッグ&ドロップ。	新しいPDFタブで表示。
JPEG・PNG画像	画面へドラッグ&ドロップ。	1画像を1ページにした新しいPDF。複数画像は1つにまとまる。
白紙のノート	「新規」でA4・A3・B4、縦横を選ぶ。	書き込める白紙PDF。
既存PDFへ貼る画像	「画像」またはCtrl+V。	表示中のページに画像注釈として貼り付く。

1 表示中のPDF名を確認する

複数開いたときは、上部タブか左パネルの「ファイル」から切り替えます。

2 パスワード付きPDFを開く

表示された入力画面にパスワードを入れます。必要に応じて「パスワードを外したPDFとして開く」を選べます。

3 閉じる前に保存する

タブの×を押し、未保存なら「保存して閉じる」「破棄」「キャンセル」などの選択を確認します。

画像の追加方法を間違えない

ドラッグ&ドロップは新しいPDFを作る操作です。今のPDFに写真を重ねる場合は「画像」または貼り付けを使います。

04 / PDFノートブック

ページ移動・拡大・表示方向

今読みたい場所へ移動し、文字が読みやすい表示を選びます。

操作	使い方
ページ移動	先頭・前・次・最終のボタン、ページ番号欄、左右矢印キー、左パネルのページ一覧。
幅一杯	ページの横幅を表示領域に合わせる。文字を大きく読むときに便利。
ページ全体	1ページ全体を確認する。紙面の端や注釈位置を確認。
倍率・＋・－	拡大率を選ぶ。タッチ端末では2本指の操作も使う。
ハンド	紙面の移動はハンドの左ドラッグ、またはCtrl+左ドラッグ。右ドラッグは注釈選択し、離すとメニュー。Ctrl/Shift付きは選択へ追加。
連続／単一ページ	スクロールで複数ページを読むか、1ページずつ表示するかを切り替える。
縦横一杯表示	道具やパネルを隠して紙面の表示領域を広げる。

横方向へ読む場合

「横スクロール」の横書き文書はページ番号の順に左から右へ並び、ホイールを下へ回すと右、上へ回すと左へ進みます。縦書き文書は右から左の配列とホイール方向を維持します。「表示」の「ページ間隔 (px)」で0～500pxを指定し、0で隙間をなくせます。間隔はPDFごとに端末内へ保存されます。「縦スクロール」で元へ戻せます。

文書方向とメモ方向は別です

「横書き文書」ではSpaceで右、Shift+Spaceで左へ、「縦書き文書」では逆方向へ移動します。この設定を変えても、メモの縦書き・横書きは別に指定します。

05 / PDFノートブック

検索・目次・リンクを使う

文字を探す操作と、ページへ移動する操作を組み合わせます。

1 PDF内の文字を探す

「検索」またはCtrl+Fを押し、語句を入力します。↑／↓で前後の一致箇所へ進みます。

2 PDFの目次を使う

左パネルの「目次」を押します。PDFに目次が登録されていれば、項目を押して該当ページへ移動できます。

3 リンクを開く

文字選択などの操作状態で、PDF内のWebリンクをクリック・タップします。リンク先は新しいタブで開きます。

1

文字を選べる

検索・辞書へ進む

>

2

画像だけ

OCRで文字を認識

>

3

認識後

結果を確認して検索

困ったこと

確認

検索で見つからない

画像だけのPDFではないか。単語の表記やOCR誤りはないか。

目次が空

元のPDFに目次が登録されていない場合があります。ページ一覧で移動できます。

リンクが押せない

描画ツールで線を引こうとしていないか確認し、文字選択へ切り替えます。

OCR後も原文を確認する

小さな文字・数式・縦書きなどは認識を誤ることがあります。検索結果だけで重要な記述を判断しないようにします。

06 / PDFノートブック

ペン・マーカー・図形で書く

紙面を強調する道具と、一時的に指し示す道具を区別します。

ツール	基本操作
ペン	選んだ色・太さで紙面をドラッグして描く。
マーカー（手）	自由な軌跡で文字の上を強調する。
マーカー（線）	始点から終点へ直線のマーカーを引く。
線・矢印	ドラッグで方向と長さを決める。
四角・円	ドラッグで大きさを決める。右パネルで線と塗りを別々に設定。
レーザー	説明時に指し示す。軌跡は短時間で消え、PDFには保存されない。
削除・消しゴム	クリックした注釈を消す。グループなら全体が対象。

1 道具を選ぶ

上部ボタンまたは右端のパレットを使います。

2 色・太さ・不透明度を設定する

右の注釈パネルで調整します。薄く残す場合は不透明度を下げます。

3 紙面へ描く

移動したいだけならハンドへ切り替えます。誤って描いた線は「元に戻す」で戻せます。

手書きとレーザーの設定

ペン・マーカー・レーザーは手ぶれを抑えて滑らかに描きます。カーソルはペン・レーザーが小さい破線の円、マーカーが線幅に合わせた破線の四角です。「レーザーポインタ設定」で維持時間と消失時間を各0～60秒に設定します。既定は維持0.0秒・消失0.6秒です。次の線を描いても前の線は独立して消えます。設定は端末とパレットJSONに保存できます。

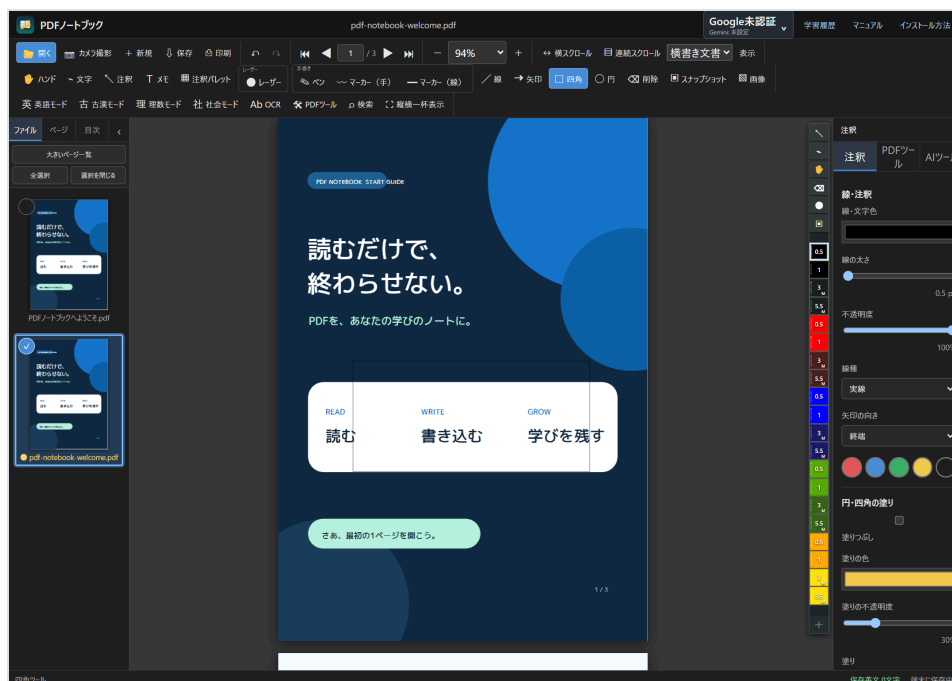
文字を隠し過ぎない

マーカーや図形の塗りは、色と不透明度を調整します。完成した紙面を一度「ページ全体」で見ても、教材の文字が読めるか確認します。

07 / PDFノートブック

書き込みの見た目を確認する

紙面上の結果を見ながら、右パネルで線と塗りを調整します。



実画面：四角の注釈を描いた例。右側の注釈パネルで色や太さを調整できます。

確認する場所	見るポイント
中央の紙面	教材の文字や図を隠していないか。強調したい範囲に合っているか。
右の注釈パネル	線の色・太さ・不透明度、図形の塗りを確認。
右端のパレット	現在使っている道具を確認。読むときはハンドや文字選択へ。

描き直す前に

間違えた直後なら「元に戻す」、位置や大きさだけなら注釈選択で調整できます。保存する前に紙面全体を見て確認してください。

08 / PDFノートブック

メモを入力・編集する

手書きではなく、文字を入力してページに残します。

1 「メモ」を選ぶ

紙面をクリックすると既定の枠、ドラッグすると指定した大きさの枠を作れます。

2 文字を入力する

Ctrl+Enterで確定、Escで取り消します。日本語変換中は候補を確定してからメモを確定します。

3 大きさと向きを整える

メモのフォント、文字サイズ、色、ボールド、行間、字間、書字方向を調整します。縦書きも選べます。

4 後から直す

メモをダブルクリックするか、選択済みメモの内側を押して再編集します。移動はドラッグ、サイズ変更は枠のハンドルです。

設定	目安・注意
行間	文字サイズに対する1〜3倍。重なる場合は間隔を広げます。
字間	0〜1emの追加間隔。狭い枠に詰め込み過ぎないようにします。
フォント	利用できる環境ではインストール済みフォントを読み込みます。使えない場合は名前を入力します。
横書き・縦書き	作成前にも、選択したメモにも指定できます。

途中の文字が見えないとき

メモの枠から文字があふれている可能性があります。文字サイズを下げるか、枠を広げます。メモ編集集中のCtrl+C/V/Zなどは、メモの本文に作用します。

09 / PDFノートブック

注釈を移動・拡大・まとめる

描いた後から位置や見た目を調整できます。



1 「注釈」を選ぶ

上部またはパレットの注釈選択ツールへ切り替えます。

2 対象を選ぶ

注釈をクリックします。空白から囲むようにドラッグすると複数選択できます。ShiftまたはCtrlを押しながらのクリックで追加・解除できます。

3 移動・サイズ変更する

選択した注釈をドラッグして移動し、枠のハンドルでサイズを変えます。

4 プロパティを直す

右パネルで線の色・太さ・不透明度、円や四角の塗りなどを変更します。

5 まとめて扱う

複数選択後にCtrl+Gでページごとにグループ化。Ctrl+Shift+Gで解除します。

削除する単位に注意

グループの一部を選ぶとグループ全体が対象になる場合があります。1つだけ直したいときはグループ解除し、間違えた場合は元に戻す操作を使います。空白をクリックすると選択を解除できます。

10 / PDFノートブック

注釈パレットを自分用に整える

よく使うペンとマーカーを、すぐにはるようにはします。

1 枠を押して道具をえぶ

種類・色・太さ・不透明度が適用されます。数字とM/mなどの表示でペンとマーカーを見分けます。

2 枠を右クリックして編集する

種類、色、太さ、線種などを設定します。「現在の線種・図形を登録」や複製も使えます。

3 順番や数を変える

+で追加。1～50枠。枠の左端をドラッグするか、Alt+上下矢印で並べ替えます。最後の1枠は残ります。

4 設定をファイルに残す

エクスポートでpallet.jsonを保存し、別の環境ではインポートします。設定画面の保存・キャンセルを確認します。

よく使う組合せ例	使う場面
細い黒ペン	計算・短い書き込み。
赤いペン	訂正・間違えた場所。
薄いマーカー	根拠の語句を強調。
文字選択・ハンド	読む／動かす操作へすぐ戻る。

パレットは右側に固定です

ドラッグでパレット全体を移動する操作ではありません。上部の「注釈パレット」を押すと表示／非表示が切り替わり、非表示時は紙面を広く使えます。

11 / PDFノートブック

写真・画像・紙の書類を取り込む

新しいPDFとして読むか、今のページへ貼り付けるかを選びます。

目的	入口
画像を新しいPDFにする	JPEG・PNGを画面へドラッグ&ドロップ。
今のPDFへ画像を重ねる	「画像」、Ctrl+V、カメラ撮影の画像モード。
複数枚の紙をPDFにする	「カメラ撮影」のPDFモード。

1 「カメラ撮影」を開く

上部・開始画面・紙面メニューなどから開き、カメラ利用を許可します。

2 紙面を撮影する

紙全体を点線枠へ入れて撮影します。端末の画像を選ぶ方法も使えます。

3 四隅と画質を補正する

PDFは四隅を紙の輪郭へ合わせます。ノイズ除去、背景消去、ボケ修正を試し、確認画面で内容が欠けていないか見ます。

4 画像追加・追加撮影をする

取り込む画像を一覧で確認します。不要な画像は削除し、再補正や追加撮影を行います。

5 PDFとして取り込む

PDF取り込みを押すと、撮影順の複数ページPDFになります。画像モードは範囲を調整した1枚を画像注釈として貼ります。

画像モードでPDFを開いていない場合

A4縦の白紙PDFが用意されます。取り込んだ後は、配置を確認して本体の「保存」でファイルに残します。

12 / PDFノートブック

範囲を画像として取り出す

図や問題の一部分だけを、コピー・保存・学習に使えます。

1 スナップショットを選ぶ

上部ボタンまたはパレットから選びます。

2 必要な範囲をドラッグする

問題なら条件・図のラベル・選択肢も含めます。指やマウスボタンを離すとメニューが開きます。

3 使い道を選ぶ

コピー、背景透明化、切り取り、PNG保存、OCR、AIツールなどを選びます。中止はEscです。

4 取り出した内容を確認める

文字や線が欠けていないか見ます。狭過ぎた場合は範囲を選び直します。

操作	使う場面
コピー・PNG保存	元の紙面を保ちながら、画像を他の資料へ使う。
透明化してコピー	背景を消して図などを重ねたい場合。
切り取り	範囲を消してコピーする。間違えたら元に戻す。
OCR	画像内の文字を認識し、確認・修正してコピーする。
AIツール	問題・答案の画像を各学習アプリへ渡す。

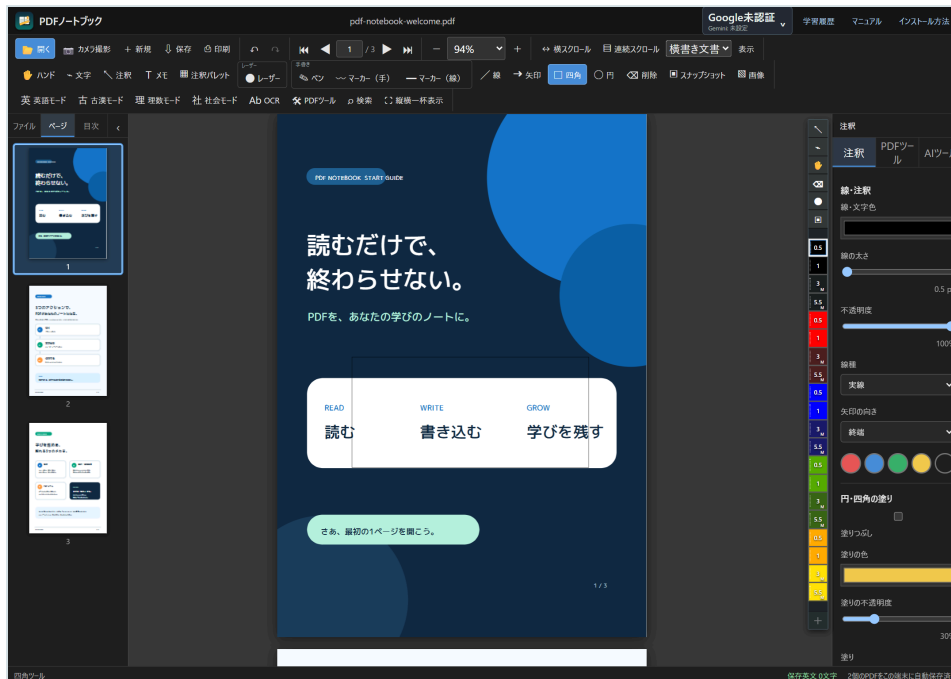
PDF全体と範囲画像の違い

右パネルのAIツールは表示中PDF、スナップショット後のAIツールは選択した画像を渡します。どちらを使ったか意識すると、余分なページの送信を避けられます。

13 / PDFノートブック

ページ一覧から目的のページを探す

縮小表示を使うと、紙面の見た目から探せます。



実画面：左パネルの「ページ」。縮小表示と中央の紙面を見比べて操作します。

1 左の「ページ」へ切り替える

左パネルが閉じている場合は、左端の固定タブから開きます。

2 ページ番号と紙面を見比べる

似た紙面が続くときは、番号も確認して対象を選びます。

3 広い一覧で操作する

左の「ファイル」から「大きいページ一覧」を開くと、複数ページの選択や整理がしやすくなります。

移動と編集を区別する

読む場所を変える操作と、ページそのものを移動・削除する操作は別です。編集前に対象のページと選択範囲を確認してください。

14 / PDFノートブック

ページを並べ替え・コピーする

左パネルの一覧と、大きいページ一覧を使います。

1 左の「ページ」を開く

現在のPDFのページ一覧へ切り替わります。広く操作したいときは「ファイル」から「大きいページ一覧」を開きます。

2 ページを選択する

クリックで1ページ、Ctrl+クリックで追加・解除、Shift+クリックで連続範囲を選びます。

3 コピー・移動する

通常のドラッグは移動、Ctrl+ドラッグはコピーです。別のページ一覧ウィンドウへも操作できます。

4 右クリックで操作を選ぶ

コピー、貼り付け、削除、白紙ページを前／後ろへ追加できます。挿入位置と選択対象を確認します。

5 結果を確認して保存する

ページをダブルクリックすると本体の該当ページへ移動します。順番・ページ数を確認し、本体で保存します。

1

ページを選択

1枚／複数／連続範囲

>

2

位置を変更

移動またはコピー

>

3

確認

順番と枚数を確認

削除する前に確認

複数選択中のコピー・削除は選択した全ページが対象です。最後の1ページは削除できません。大切な元資料は別ファイルとして残しておきます。

15 / PDFノートブック

PDFツールの入口と出力

まず対象PDFを確認し、設定と保存先を選びます。



1 「PDFツール」を開く

上部ボタン、または右パネルのタブを使います。

2 目的に合うツールを選ぶ

ダイアログの対象一覧を確認します。複数PDFを追加できるツールと、表示中PDFを使うツールがあります。

3 設定・プレビューを確認する

対象範囲、順序、用紙、品質などを設定します。保存先を選んで実行します。

4 保存後のPDFを確認する

保存したPDFが新しいタブで開きます。実際のファイル名、ページ数、見た目を確認します。

実画面：右パネルのPDFツール一覧。下ヘスクロールすると続きの機能があります。

保存先の表示はブラウザーにより異なります

PDFツールはダウンロードフォルダーを初期位置として保存先を選びます。対応しないブラウザーでは通常のダウンロードになります。同名のPDFがある場合は連番の名前を確認します。

16 / PDFノートブック

結合・分割・集約を使う

ファイルのまとまりと、1枚に置くページ数を調整します。

ツール名	操作	確認すること
マージ	PDFを追加し、上から順に並べて結合する。	ファイル順・全体のページ数。
ファイル分割	表示中PDFを、指定したページ数ごとに分割する。	区切り方と出力ファイル数。
ページ編集	ページの並べ替え、別PDFの挿入、コピー・貼り付け・削除。	挿入位置と不要な重複。
ページ集約	2in1／4in1と用紙サイズ・向きを選ぶ。	文字が小さ過ぎないか、読む順序。

例：別々の配布資料を1つにまとめる

1 マージを選ぶ

資料を追加して、表紙→説明→練習問題の順に並べます。

2 一覧を確認する

不要なPDFを除外し、重複がないか確認します。

3 保存先を選んで実行する

生成されたPDFを開いて、最初と最後のページ、ファイルの境目を確認します。

元のファイルを残す

結合後のPDFを使う場合も、必要なら元資料を別に保管します。集約したPDFは文字が小さくなるため、画面と印刷プレビューの両方で読みやすさを確認します。

17 / PDFノートブック

余白・用紙・傾き・見開きを整える

切り抜きと用紙の拡張は、目的が異なります。

ツール名	できること	操作のポイント
トリミング	不要な余白を切り抜く。	対象ページと四辺を指定。プレビューで文字の欠けを確認。
キャンバス拡張	上下左右へ白紙を足す。	メモ用の余白を追加。数値とドラッグは0.1cm単位。
キャンバス揃え	異なるページサイズをそろえる。	A4・A3・B5・B4・任意サイズ。縦横比を保ち中央配置。
枠消し（スキャン影消去）	上・下・左・右・センターを各0～500mmで白く覆う。	0の方向は消去しない。センターは中央縦帯の全幅。現在／全ページ／開始～終了ページを選び適用。
ごみ取り（矩形ドラッグ）	紙面をドラッグして囲んだ範囲を白で覆う。	Ctrl+Z／Yで元に戻す・やり直し、Ctrl+SでPDFに保存。元の文字データを完全に削除する用途には使えない。
リサイズ	品質を選び容量を調整する。	容量の見積もりと、小さい文字の読みやすさを確認。
傾き補正	画像として紙面の傾きを補正する。	薄い文字や背景に応じてしきい値を調整。
横長コンバータ	縦長ページを横向き用紙へ置く。	余白と文字サイズを確認。
横書き＞縦書き変換	ページを90度回転して配置する。	文章を縦書きに組み直す機能ではありません。
見開き分割＞交互並び替え	見開きを左右へ分割して並べる。	開始ページと綴じ方向を確認。
見開きPDF一括処理	切抜・分割・傾き補正・OCRを順に適用。	通常版と横長版を確認。切抜範囲は対象ページへの適用範囲。

少ないページで確かめる

切り抜く端、綴じ方向、傾きが意図どおりかをプレビューで確認します。長いPDF全体へ適用する前に、文字やページ順が崩れない設定を選びます。

OCRで文字を検索可能にする

画像だけのPDFから文字を認識します。



実画面：OCR設定。言語と処理範囲を選んで実行します。

1 「OCR」を押す

対象PDFを開いた状態で、上部のOCRボタンを使います。

2 言語を選ぶ

英語、日本語横書き、日本語縦書きから、紙面に合うものを選びます。

3 範囲を決めて実行する

初めは現在ページで結果を確認し、必要なら全ページを処理します。完了まで待ちます。

4 文字と保存を確認する

検索や文字選択を試します。必要ならこのページのOCRを解除してやり直します。完成版は「保存」でOCR結果をPDFへ反映します。

認識に時間がかかる場合

ページ数や端末性能によって時間が変わります。最初は少ないページで試します。OCRは誤字を含むことがあるため、引用や学習に使う文字は元画像と照らし合わせます。

19 / PDFノートブック

一括OCR・変換ツールを使う

複数ファイルの文字認識や、別形式からのPDF作成に使います。

ツール	操作と確認
一括OCR	PDFを追加して順序・言語を確認。通常は文字を持つページを省略。「文字があっても強制OCR」は認識し直す場合に選ぶ。
OCRテキストエディタ	表示中PDFをOCRし、結果を修正してPDFまたはTXTへ保存。TXT読込・内容消去・再OCRも使える。
MD> PDF変換	Markdownの内容をPDFへ変換。見出し・表・数式などの出力を確認。
ファイル> PDF変換	対応形式のファイルを選び、画面の設定を確認してPDFへ変換。
一括画像ファイル> PDF変換	複数の画像からPDFを作る。画像順とページの向きを確認。
PDF> Google Docs変換	Google認証後に利用。変換された文章・図表を元PDFと確認。
英文難易度測定 (0-100)	対象英文の学習上の難易度を確認。得点は読む力の絶対評価として扱わない。

一括OCRの状態欄を読む

ページ別の進捗、保存、保存済みPDFの読み込み、表示完了が順に出ます。「処理を中止」で止められます。保存が終わっただけで画面への読み込みが進行中の場合もあるため、最後の状態まで確認します。

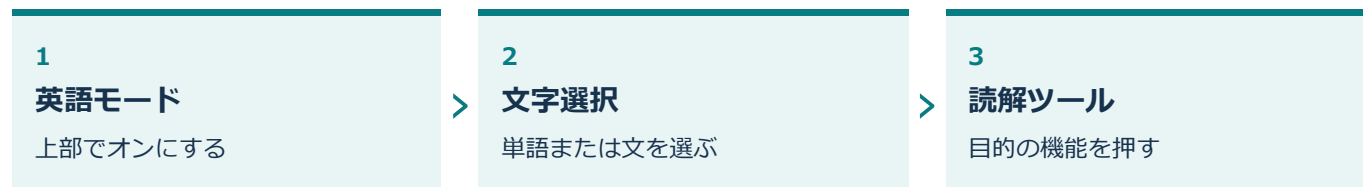
変換後の確認は必要です

改行、表の対応、数式の記号、縦書きの順序、OCRの誤字を確認します。元資料は保管し、変換結果と比べられるようにします。

20 / PDFノートブック

英語モードで読む・調べる

文字を選択して、辞書・翻訳・構造解析を使います。



機能	使う目的
Listen	英文の発音を聞く。
Translate	日本語訳と対象英文を確認。英文を直して再翻訳できる。
Dictionary	単語・熟語の品詞、語義、用法、検索語の形を確認。
Analyze	主語・動詞・句・節・修飾関係、訳と解説を確認。
Direct	意味のまとまりと直訳をたどり、左から読む。
Store	選択英文を英語の読解ログへ追記。
Pdf Ed.	選択英文を行間の広いA4 PDFにして開く。
AI Ref.	プロンプトと英文をコピーし、選んだAIで貼り付ける。
Sheet	保存したログから語彙・文章の学習表を作る。

辞書が出ないとき

英語モードと「文字」ツールを確認します。画像だけのPDFは先に英語OCRが必要です。起動時は学習モードがオフなので、使うモードを選んでください。

21 / PDFノートブック

辞書の語義と品詞を読み分ける

表示された意味が、その文の中でも使えるかを確認します。

1 語句をまとまりで選ぶ

単語だけでなく、take offやin terms ofなどの熟語も選べます。

2 結果をスクロールして読む

収録された語義と用法を確認します。最初の日本語訳だけで決めないようにします。

3 検索語を修正する

結果上部の英語を書き換え、「再検索」またはEnterで引き直します。

4 文の中の役割と比べる

辞書は、選択した文の品詞を自動的に確定した結果ではありません。どの語を修飾するかなどを原文で確認します。

表示	読み方
品詞	語義ごとに付きます。同じ綴りに複数の品詞があります。
検索語の形	原形・過去形・現在分詞・単複・比較級などを確認。
熟語	文を選ぶと範囲に含まれる登録熟語を表示。文全体の訳はTranslate。
未収録語	翻訳サービスの訳やWeblioでも確認できます。

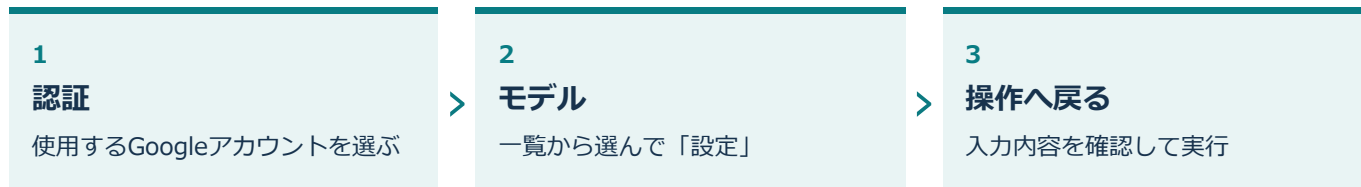
例 : still

stay stillの「じっとした」という状態と、She is still waiting.の「まだ」は用法が違います。本文に合う語義を選ぶことが、辞書を使う最後の操作です。

22 / PDFノートブック

Google認証とモデルを準備する

AIを使う前に、保存先のアカウントと使用モデルを確認します。



1 右上のアカウント・モデル表示を押す

「Google未認証」やアカウント名、Geminiモデル名があるボタンを開きます。

2 Google認証を完了する

設定・認証ボタンから認証画面を開きます。使用するアカウントと権限を確認して進みます。

3 モデルを選んで「設定」を押す

Geminiモデルの一覧から指定します。画面上部に選んだモデル名が表示されたことを確認します。

4 元の操作を実行する

入力画面へ戻り、生成・分析などのボタンを押します。入力が不足している場合は、その案内に従って補います。

こんなとき	確認すること
認証画面が開かない	ブラウザのポップアップ制限を確認し、許可後に認証ボタンを押し直します。
履歴が見つからない	保存時と同じGoogleアカウントか確認します。アカウントを変えると履歴の参照先も変わります。
モデルが選べない	通信状態を確認して設定を開き直します。一覧が取得できるまで実行を待ちます。

共有端末で使うとき

画面のアカウント名を毎回確認します。アカウント変更は設定内の切替操作を使い、履歴を開く前に切替先の名前を確認してください。

23 / PDFノートブック

国語モードで古文・漢文を読む

文字選択ではなく、読みたい紙面の範囲を囲んで使えます。

1 「国語モード」をオンにする

スナップショットへ切り替わります。読みたい原文を、ルビや句読点も含めて囲みます。

2 機能を選ぶ

範囲選択後のメニューで、現代語訳・語句解説・文法解析・逐語読解などを選びます。

3 原文の読み取りを確認する

画像から読み取った原文が、教材と対応しているか見ます。誤りがあれば修正できる画面で直します。

4 結果とログを読む

認証・応答待ち・完了・エラーをログで確認します。結果とログは別々に閉じられます。

機能	内容
現代語訳	原文を現代の日本語へ。対象原文を直して再翻訳、訳文も編集可能。
語句解説	読み・基本形・品詞・文脈の意味。古文は活用や敬語、漢文は句法など。
文法解析	原文・訳・語句・文法。漢文では書き下し・訓読順も確認。
逐語読解	古文は原文順、漢文は訓読順に意味のまとまりをたどる。

返り点・送り仮名を原文と照合する

漢文の読取表示は、返り点や送り仮名などを整理した原文になります。ルビ、訓読順、読み、省略主語は誤ることがあるため、画像と比べてください。国語モードにListenはありません。

国語の文章保存・Sheet・PDF化

原文の保存と、画像だけのPDF化を使い分けます。

機能	残る内容
文章保存	画像から読み取った原文を国語用読解ログへ追記。英語ログとは別。
保存文章の文と語彙解説	保存した国語ログをもとに語彙・文章のSheetを作る。
PDF化	選択画像だけをA4横の右上に配置して開く。文字起こしはしない。
AI参照	国語用プロンプトと読み取った原文をコピー。AIへ貼り付ける。

1 文章保存でログへ集める

Google認証とモデル設定を済ませ、対象範囲を確認して実行します。

2 保存文章を確認する

「保存文章の文と語彙解説」でログを選びます。空なら文章保存を使うか本文を入力します。直前の保存が処理中なら完了を待ちます。

3 Sheet作成前に保存する

出力先を確認してSheet作成を押すと、対象ログをTXTで保存します。保存を取り消すと処理は進みません。保存後は次の文章保存用ログが用意されます。

4 結果を確認する

語句・品詞・現代語の意味・文法や句法・書き下し文などを、元資料と比べます。

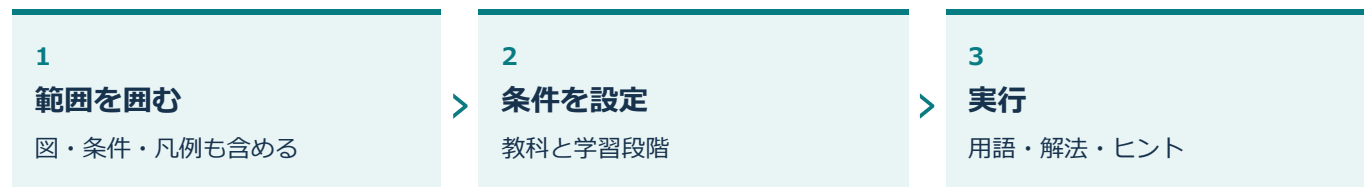
処理が失敗した場合

混雑時は自動で再試行します。処理できなかった場合はログの「同じ画像で再試行」を使えます。別の範囲を使いたいときは、前の処理を終えてから選び直します。

25 / PDFノートブック

理数・社会モードで考える

資料を囲み、教科と学習段階を選んで学びます。



1 理数または社会モードを押す

自動でスナップショットへ切り替わります。文字だけを使う場合は「文字」へ切り替えることもできます。

2 資料の範囲を選ぶ

問題の条件、図のラベル、グラフの軸・単位、社会資料の年号や地域を含めます。

3 機能と条件を選ぶ

理数は「用語・公式」、社会は「語句・事件・年号」など。教科と「中学生」「高校生」「大学受験」を選びます。

4 取り込んだ資料を確認する

「取り込んだ資料を確認・修正」で読取文章や画像を見ます。誤字や補足条件を直して「実行」を押します。

理数モード	社会モード
数学・理科・高校の情報。記号、単位、公式の適用条件、立式や検算を確認。	地理・歴史・公民。語句・事件・思想・制度、史資料、因果・比較を確認。

モードは1つずつ

英語・国語・理数・社会は同時に使えません。同じボタンをもう一度押すとオフになります。処理中は切り替えられないため、完了または中止を確認します。

26 / PDFノートブック

ヒント・助言・学習メモを使う

解答を見る前に、自分で考える段階を作れます。

1 問題解法解説を読む

条件整理、求めること、資料の読み方、解き方への道筋を確認します。

2 「次のヒント」で少しずつ進む

着目点から最初の一手へ3段階で進みます。答えを確かめるときに「解答・解説を見る」を押します。

3 自分の考えを入力する

確認問題への回答や考え方を書き、「考え方への助言」を押します。どの根拠が足りないかを見直します。

4 必要な内容を保存する

「結果をコピー」「学習メモを保存」「PDFにメモを追加」を使います。PDFへ追加した後は本体の「保存」も行います。

操作	注意
情報を検索・出典を確認	検索語を見直し「Webで検索」。AI解説そのものがWeb検索結果とは限りません。
学習メモを保存	対象文章と解説をTXTへ。スナップショット画像自体は含まれません。
PDF化	画像だけをA4縦の左上へ。解説本文の保存とは別です。
AI参照	画像とプロンプトをコピーして外部AIへ。片方しか貼れない場合は個別コピーやPNG添付を使います。

資料や条件を変える前に

教科・学習段階・資料を変えると、前の結果やヒントはリセットされます。残したい内容を保存してから変更してください。

学習履歴と他アプリへの受け渡し

学んだ結果を振り返り、別の学習へつなぎます。

Google Driveの学習履歴

1 上部の「学習履歴」を開く

保存時のGoogleアカウントで認証します。英語・国語・理数・社会の結果を確認できます。

2 教科・日付で絞る

「教科・モード」と開始日・終了日を指定します。両日を含む期間です。「条件をクリア」で全件へ戻ります。

3 内容を再表示する

対象資料と解説を確認します。削除は表示中の項目からチェックし、選択対象を確かめて実行します。

他の学習アプリへ送る

送り先	使う場面
問題解説アシスタント	教材の問題について、解答と詳しい理由を読む。
学習コーチ	教材から問題を学ぶ、類題で練習する。
学習アナライザー（問題）	テストの問題資料を渡す。
学習アナライザー（解答）	自分の答案を渡す。先に送った問題と合わせて分析。

保存できたかを確認

学習履歴は「000Faith-SW-データベース / PDFノートブック-PWA」に保存されます。解説が表示されても履歴保存に失敗する場合があるので、ログの保存状況も確認します。

完成版を保存・印刷する

作業中の状態を、他の人も開けるPDFファイルにします。

1 対象のPDFタブを確認する

複数の教材を開いている場合は、保存するタブの名前を見ます。

2 上部の「保存」を押す

注釈、画像、OCR結果を反映したPDFを作ります。元ファイルをそのまま上書きするのではなく、新しいPDFとして保存します。

3 保存先と完了を確認する

元データの場所またはダウンロード先など、ブラウザーに表示された保存先を確認します。保存結果を確認できない環境では、端末のファイル一覧も見ます。

4 印刷する場合は「印刷」を使う

注釈・OCRを反映した印刷用PDFが別タブで開きます。ページ範囲、用紙、向き、倍率を選びます。

1

自動復元

この端末で作業を続ける

>

2

保存

完成したPDFを残す

>

3

印刷

紙やPDFへ出力する

保存したファイルを一度開く

端末の保存先でPDFを開き、必要なページ、注釈、OCR文字が含まれているか確認します。ブラウザーによっては保存を開始したことだけが分かり、完了をアプリ側で確認できない場合があります。

29 / PDFノートブック

自動復元と端末内データを管理する

便利な再開機能と、持ち出せるPDFの保存を併用します。

データ	保存場所・用途
開いたPDF・注釈・OCR・位置	自動復元用として、この端末のブラウザーに保存。
保存したPDF	端末のファイル。共有・提出・バックアップに使う。
学習履歴	認証したGoogle Drive。解析・解説の記録。
パレット設定	ブラウザー内。pallet.jsonへエクスポートできる。

1 自動保存の状態を確認する

画面下の状態表示を確認してから終了します。復元用データは、この端末のブラウザー内に保存されます。

2 同じ環境から再開する

同じ端末・同じブラウザー・同じアプリのURLから開きます。復元されない場合は、保存したPDFを開き直します。

3 共有端末では作業後の紙面を残さない

必要な完成PDFを保存し、保存した内容を確認してからPDFタブを閉じます。

4 サイトデータを消す前に保管する

ブラウザーのサイトデータ削除は、復元用データや端末内の設定も失う可能性があります。PDFとパレット設定を書き出してから操作します。

閉じるときの選択

未保存のPDFでは「保存して閉じる」を選ぶと、保存を行って閉じます。キャンセルは作業へ戻る選択です。「破棄」はその編集を残さない場合だけ使います。

30 / PDFノートブック

キー操作とタッチ操作の早見表

道具を切り替える操作を覚えると、書き込みが速くなります。

キー	機能	キー	機能
V	手書き	E	消しゴム
M	注釈選択	L	文字選択
W	レーザー	S	スナップショット
H	ハンド	T	メモ
F	フルスクリーン切替	O	ページ全体が収まる倍率
Ctrl+Z	元に戻す	Ctrl+Y	やり直し
Ctrl+G	注釈をグループ化	Ctrl+Shift+G	グループ解除
Ctrl+Tab	前のPDFタブ	Ctrl+F	検索

タッチ・マウスの補助操作

紙面のダブルタップでモードメニュー、約0.5秒の長押しで右クリックメニューを開けます。マウスではCtrlを押しながら右クリックしてモードメニューを開きます。ツール変更中に意図せず描かれた線は取り消されます。

タッチ端末で紙面をタップすると左右パネルが閉じる場合があります。再表示は画面端の固定タブを使います。

キーが反応しないとき

アルファベットの大文字・小文字は区別しません。半角英数入力で使います。日本語入力中や、メモ・検索欄などを編集時は道具の切替ショートカットが動作しません。ブラウザーがCtrl+Tabをブラウザータブの移動に使う場合は、左の「ファイル」からPDFを切り替えてください。

31 / PDFノートブック

困ったときの確認順

「開く」「書く」「調べる」「保存」のどこで止まったかを確認します。

症状	対処
PDFを開けない	別ビューアーで開けるか、パスワードが必要か確認します。
読むつもりで線が引かれる	ハンドまたは文字ツールへ切り替えます。誤った線は元に戻す。
パネルが消えた	画面左端・右端の固定タブを押します。
メモの文字が欠ける	枠を広げるか、文字サイズ・行間を調整します。
検索・英語選択ができない	画像だけのPDFならOCRを実行します。英語モードも確認。
AI機能が動かない	Google認証・モデル・通信・選択範囲を確認します。
履歴に結果がない	保存時のアカウントとログの保存エラーを確認します。
保存したPDFが見つからない	ブラウザのダウンロード一覧と保存先を確認します。
編集が復元されない	同じ端末・ブラウザか、サイトデータを消していないか確認。保存PDFがあれば開き直します。
動作が重い	大切な編集を保存し、不要なPDFタブを閉じます。OCRなどは少ないページで試します。

端末内の処理と通信する機能

PDF表示・注釈・通常のOCR・PDF生成は端末内で処理します。翻訳・音声・外部辞書・AI解析・Google Drive保存などは、その操作に必要な内容を外部サービスへ送ります。

32 / PDFノートブック

毎日の起動・更新・終了

ブラウザから利用でき、対応する端末ではアプリとして追加できます。

端末	追加の操作
WindowsなどのPC	アプリ内の「インストール」、またはブラウザのインストール機能を使います。表示名や場所はブラウザによって異なります。
iPad・iPhone	Safariで開き、共有メニューから「ホーム画面に追加」を選びます。
その他の端末	ブラウザにアプリ追加・ホーム画面追加の項目がある場合に利用できます。

終了前にすること

1 処理中か確認する

AI処理やファイルの保存が進行中なら、完了または中断を確認します。ログ枠を閉じるだけでは処理の中止にならない場合があります。

2 残したい結果を保存する

共有・印刷用ならPDF、画面へ戻す用途なら各アプリのJSONや履歴など、目的に合う方法で保存します。

3 次回の入口をそろえる

端末内のデータを使うときは、同じ端末・同じブラウザ・同じアプリのURLから開きます。

古い画面が表示されるとき

作業を保存してからページを再読み込みします。インストール済みアプリは一度終了して開き直します。先にサイトデータを消すと、端末内の下書きや注釈を失う場合があるため、保存を済ませてください。

アプリの削除と保存データ

削除は端末のアプリ一覧やホーム画面から行います。Google Driveへ保存したデータと端末内データは保存場所が異なります。大切なファイルは削除前に別途保存してください。

AI処理の進み具合と再実行

大きい画像・PDFとページごとのOCR

大きい添付資料は自動で小分けに送信します。Google Docs変換や英文難易度測定のGemini OCRはページごとに進め、取得できた本文を保持します。保存済みのOCRは、同じPDF・モデル・Googleアカウント・変換方式で再開すると再利用されます。

認証・利用上限・継続する通信障害が発生した場合は、未処理のページへ同じ要求を繰り返しません。未完了ページはログと途中の文書で確認でき、原因が解消してから同じ条件で再開できます。難易度測定には取得できた本文だけを取り込み、本文を取得できなかった場合は入力済みの英文を残します。

混雑・通信切断・不完全な応答

一時的な混雑や通信の失敗、本文が欠けた応答は、待ち時間を置いて自動で再試行します。処理ログで状況を確認し、同じ実行ボタンを続けて押さずにお待ちください。再試行には回数と待機時間の上限があります。

処理が完了しなかったとき

自動で回復できない場合はエラーを表示し、応答待ちを終了します。入力した内容は残るので、エラーの原因を確認し、必要な条件を直して元の実行ボタンから再実行してください。中止ボタンのある機能は、待機中や再試行中も中止できます。

認証・利用上限の案内が出たとき

Google認証やGeminiモデルの設定を確認します。利用上限・権限不足・使用できないモデルの案内は、同じ要求を繰り返しても解決しません。画面の案内に従って設定を確認するか、利用可能になるまで待ってから再実行してください。

学習ウィンドウの操作

英語・国語・理数・社会の結果画面は、右上の×で閉じます。画面の外をクリックしても閉じません。タイトルや操作欄の空いている部分をドラッグすると移動でき、四隅・四辺をドラッグすると大きさを変えられます。本文をスクロールしてもタイトルは残ります。

Geminiの応答待ちには「応答中断」を押せます。入力を保持したまま待機を終了し、同じ内容で再実行できます。「PDF保存」（または「結果をPDF保存」）は、見出し・表・数式などの装飾を反映して保存します。ブラウザーの印刷画面で保存先を「PDFに保存」にしてください。

Gemini応答を待っている間も、処理ログのタイトルをドラッグしてログだけを移動できます。四隅・四辺ではログだけを拡大・縮小できます。学習結果のウィンドウはその位置に残ります。

Googleドライブから開く・保存する

ファイルを開くときや書き出すときは、読み込み元・保存先で「端末」または「Googleドライブ」を選びます。Googleドライブを利用するときは、先にアプリのGoogle認証を完了してください。Drive画面に表示される認証アカウントを確認します。フォルダーは選択ウィンドウの横幅いっぱい、階層が分かるツリー形式で表示します。「選択して開く」「このフォルダーに新規保存」「キャンセル」などの操作ボタンはツリーの右下にあります。フォルダー行をクリックすると選択され、子フォルダーがある場合は展開・折りたたみが切り替わります。選択中のフォルダーは緑色で強調され、上部にその階層を表示します。読み込み時は選択したフォルダーを展開し、ツリー内に表示されるファイルヘチェックを付けます。ファイル名でDrive全体を検索すると、ツリー内の「Drive全体の検索結果」から選べます。「フォルダーツリーを更新」で最新のフォルダー一覧を取得できます。複数選択に対応した操作では、複数のファイルにチェックを付けられます。

保存するときは保存先フォルダーとファイル名を指定し、「このフォルダーに新規保存」を押します。同名のファイルがあっても上書きせず、新しいファイルとして保存します。「キャンセル」で操作を中止できます。カメラ撮影とフォルダー一括取り込みは端末から行います。Driveの通常ファイルの読み込みと保存は16MBまでで、各操作が対応する形式だけを選択できます。音声扱う操作では、MP4は16MBを超えていても選択でき、取り込み時に音声をMP3へ変換します。端末から選んだMP4も同様に変換します。音声がないMP4や対応していない音声形式は変換できません。変換の進捗を表示し、「キャンセル」で中止できます。大きなファイルは読み込みと変換に時間がかかります。Googleドキュメント・スプレッドシート等はPDFやTXT等へ書き出してから選択してください。認証エラーが出た場合は選択画面を閉じ、アプリでGoogle認証をやり直してください。ブラウザーの印刷画面で行うPDF保存は、印刷画面の保存先を使います。

つまずきの確認と後日の復習

上部の薄緑色の「つまずき・復習」を開き、「現在の教材を取り込む」で対象の1設問・文章を確認します。教科、単元、学年、自分の答案を必要に応じて直し、解答や翻訳を既に見た場合はチェックを付けます。不要な個人情報や範囲は取り除いてください。「この範囲でつまずきを確認」から、最大3つの短い質問に選択肢で答えます。「分からない・飛ばす」も選べます。

原因候補は「仮説」「確認課題で支持」「未特定」を区別します。違う点は訂正欄へ入力し、問診をやり直せます。文字や条件が読めない場合は資料を直して、新しい学習を開始してください。AIの判定に違いがあれば、試行の詳細から理由を入力して保留にできます。

元の問題、原因を確かめる1問、同じポイントの練習、考え方の説明、条件を変えた応用、後日の再確認を選べます。ヒントは着目箇所・使う知識・最初の一手の3段階です。答えは「解答・解説を見る」で表示します。ヒント・答え・原文を使った成功と、自力でできた成功は別に記録されます。「自力でできた」という自己申告だけでは習得確認になりません。

新しい確認問題で自力正答すると、翌日・3日後・7日後の復習候補が入ります。日付は変更できます。「履歴・今日の再確認」から保存済みの学習を再開します。途中の選択や答案は端末に保存され、Googleアカウントごとに区別されます。生成にはGoogle認証と通信が必要です。中断時は同じ操作を再実行でき、別の操作が先に進んだ場合は「サーバーの進行を再開」を押します。

「Driveへ保存」で学習記録を保存できます。「学習支援JSON保存」で書き出し、他の対応アプリで「学習支援JSON読込」を押すと、学習者・内容・版を確認してから取り込めます。同じ版・古い版は重複登録しません。別アプリから取り込んだ原因は計画に利用でき、AIによる練習を再開するときは原因を訂正して問診をやり直します。要約はテキスト・PDF・Google Docsへ出力でき、PDFはブラウザーの印刷画面で保存します。JSONには添付資料も含まれるため、共有先を確認してください。

PDF本文の選択範囲や理数・社会のスナップショットから開始できます。以前に使ったヒントや解答閲覧は引き継がれます。「元資料へ戻る」は同じPDFとページを確認できるときに使えます。差し替えやページ編集で対応を確認できない場合は保存済みの抜粋を確認してください。「選んだ要約をメモへ」で現在のPDFに学習のまとめを挿入できます。資料の準備中は完了まで待ってください。「応答中断」で準備を止めた場合も、対象の本文を確認して再開できます。保存済みの学習は、履歴で対象の資料と学習者を確認してから再開してください。

別の端末で履歴を開いたときなどに「サーバーの再開情報がありません」と表示された場合は、原因の訂正欄に「再開のため」と入力し、問診をやり直してください。これまでの答案・試行と復習予定を残して続けられます。

アプリの更新案内

ページ更新が必要な更新を検出した場合だけ、案内ダイアログを表示します。作業中の内容を保存してから、ブラウザーのページ更新（円の矢印マーク）を押してください。案内を閉じて自動では再読み込みしません。更新済みの場合や、更新を確認できない通信状態では表示しません。

PDFの保存先を選ぶ

PDF保存・PDF出力・印刷の操作では、アプリ内で「端末」または「Googleドライブ」を選びます。Googleドライブを選ぶと認証済みアカウントのフォルダツリーを表示するので、保存先とファイル名を指定して「このフォルダに新規保存」を押してください。同名のファイルがある場合も新しいファイルを作成します。取り消しても表示内容は残ります。端末を選んだ場合は、ブラウザーの印刷画面またはファイル保存画面で保存します。

Googleドライブへ出力するPDFは、Googleの文書形式に合わせて表・文章を整えるため、端末の印刷PDFとページ区切りや配置が異なる場合があります。保存できるファイルは16MBまでです。

PDF保存時の表示

PDF保存では、別のプレビュー用ウィンドウを開かず、元の画面で保存先選択を表示します。「端末」または「Googleドライブ」を選んでください。端末を選ぶとブラウザーの印刷・保存画面に進みます。キャンセルしても元の内容は残ります。

つまずき・復習ウィンドウの操作

「つまずき・復習」は独立したウィンドウで開きます。最上部のタイトルバーをつかむと、元のブラウザーの外へも移動できます。外枠の四辺・四隅で拡大・縮小できます。画面内の見出しや余白では移動しません。「閉じる」またはウィンドウの閉じるボタンで閉じ、同じボタンから再開できます。元のアプリを閉じると、このウィンドウも閉じます。開けない場合はブラウザーでこのアプリのポップアップを許可してください。

Gemini応答の中断

Geminiの応答中は、応答ログまたは処理中のウィンドウの中断ボタンで停止できます。入力と添付資料は保持され、同じ操作で再実行できます。つまずき・復習では「Gemini応答ログ」を開いて中断できます。

図形・メモと注釈の操作

注釈パレットの△にポインターを合わせるかクリックすると、線（／）・矢印（↑）・円（○）・四角（□）・メモ（■）を選べます。PDF上をクリックまたはドラッグして作成します。入力ダイアログの「貼り付け」で配置、「閉じる」で取消できます。入力欄の下側には日本語変換候補用の余白があります。

注釈を選択し、右クリックの「貼り付け」の下にある「統合」を選びます。確認画面で実行すると、選択した注釈だけがPDFへ固定され、個別編集ができなくなります。未選択の注釈は編集できます。キャンセルすると変更しません。統合を取り消すにはCtrl+Z、結果を残すにはPDFを保存します。

図形パレット・区切りと右クリック

線種パレットと図形パレットは合わせて最大50枠です。枠または「+」を右クリックし、「図形パレットを追加…」で線・矢印・円・四角・メモを選び、線種・色・太さ・塗り・フォントを設定して保存します。枠の右クリックで編集・現在の線種や図形の登録・複製・削除ができます。「区切りを挿入（この枠の下）」で区切り線を入れられます。区切りは50枠に数えません。枠と区切りはドラッグまたはAlt+上下矢印で並べ替え、区切りの右クリックから削除できます。

どのツールでも右ドラッグで注釈を範囲選択し、ボタンを離すと右クリックメニューを開きます。Ctrl/Shift+右ドラッグは既存の選択へ追加します。移動せず右クリックすると、その注釈を選んでメニューを開きます。紙面を移動するときはハンドの左ドラッグ、またはCtrl+左ドラッグを使います。

メモは共通の入力ダイアログで入力します。「貼り付け」またはCtrl+Enterで配置し、「閉じる」またはEscで取り消します。入力中は通常の文字入力・日本語変換・コピー・貼り付け・元に戻す操作が使える、入力欄の下側には変換候補用の余白があります。配置する文字の横書き／縦書きやフォントは、メモを作る前、または配置後に選択して設定します。配置済みメモはダブルクリックで再編集できます。

注釈パレットの配置

「設定」で「注釈パレットの配置」を選びます。「右に固定」は紙面の右側に表示します。「フローティング」はパレット上部の移動ハンドルをドラッグして動かせます。移動ハンドルにフォーカスして矢印キーでも動かせます。選択した配置は次回起動時にも使われます。

リリースノート

アプリの修正・追加内容を新しい順に掲載します。マニュアル自体の更新内容ではなく、過去の履歴も継続して掲載します。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年10月11日	オプション設定で注釈パレットの「右に固定／フローティング」を選択でき、配置を次回起動時にも保持するようにしました。
2026年10月11日	- メモ入力をブラウザーノートブックと同じ入力ダイアログに変更し、日本語変換・貼り付け・取消・再編集を使えるようにしました。 - 線種・図形・メモを属性付きで最大50枠まで登録し、枠の間に区切りを挿入・並べ替え・削除できるようにしました。 - 右クリックと右ドラッグの選択・メニュー操作をブラウザーノートブックと同じ動作に統一しました。
2026年10月11日	- 注釈パレットから線・矢印・円・四角とメモを選べるようにしました。 - メモ入力時に変換候補用の余白を画面内へ確保し、画面端・スクロール・拡大縮小に追従するようにしました。 - 右クリックの「貼り付け」の下に「統合」を追加しました。確認後、選択した注釈だけをPDFへ固定し、未選択の注釈は編集可能な状態で保持します。
2026年10月10日	Gemini応答を、応答ログと処理中のウィンドウから中断できるようにしました。中断後も入力と添付資料を保持します。
2026年10月10日	つまずき・復習を独立ウィンドウに変更し、ブラウザーの外への移動と標準の外枠による拡大・縮小に対応しました。閉じて開き直しても入力・問診・学習内容を保持します。
2026年10月10日	PDF保存の際に別のプレビュー用ウィンドウを表示せず、元の画面で保存先選択を行うようにしました。
2026年10月10日	PDF保存・出力の保存先でGoogleドライブを選び、フォルダーとファイル名を指定してPDFを保存できるようにしました。端末への印刷・保存も選択できます。
2026年10月10日	アプリの更新内容を判定し、ページ更新が必要な場合だけ、保存してからブラウザーの円の矢印マークを押す案内を表示します。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年10月10日	- Googleドライブのフォルダーツリーを選択ウィンドウの横幅いっぱいに表示し、開く・保存・キャンセルのボタンをツリー右下に配置しました。 - ファイル選択時は、選択したフォルダー内の対応ファイルをツリー内に表示し、チェックを付けて開けます。 - 音声入力で、サイズ上限を超えるMP4も選択し、取り込み時にMP3へ変換できるようにしました。
2026年10月09日	追加した学習支援ボタンの文字を濃く太くし、背景との見分けやすさを改善しました。マウスを重ねたときや操作できない状態でも文字を読み取れます。
2026年10月09日	Googleドライブのフォルダー選択を、階層を展開・折りたたみできるツリー形式に変更しました。選択したフォルダーを強調表示し、読み込み元・保存先を確認できます。
2026年10月09日	保存した学習履歴にサーバー側の再開情報がない場合も、過去の試行を保持して問診から続けられるようにしました。
2026年10月09日	学習支援の資料準備中の中断と、保存記録を読み取る互換性を改善しました。
2026年10月09日	- つまずきの問診、3段階ヒント、原因別の確認問題、自己説明・応用、日を空けた再確認を追加しました。 - ヒントや解答の利用と自力成功を分けて記録し、学習支援履歴の保存・JSON連携に対応しました。
2026年10月09日	ファイルの読み込み元と保存先で、端末に加えて認証したGoogleドライブを選べるようにしました。
2026年10月06日	Gemini応答中も処理ログのタイトルからログだけを移動・拡張できるようにし、ログ操作で学習結果のウィンドウが動く不具合を防ぎました。
2026年10月06日	- 古漢モードの表示名を国語モードに統一しました。 - 学習ウィンドウに応答中断と装飾を反映するPDF保存を追加し、外部クリックで閉じず、タイトルを保持して本文をスクロールできるようにしました。 - 四隅・四辺での拡大縮小と操作欄の余白での移動に対応しました。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年10月05日	- 読解・理数社会の学習支援・Gemini OCR・英文難易度測定の通信を改善し、大きい添付の分割送信と一時的な失敗の自動再試行に対応しました。 - 重複した再試行と無期限の応答待ちを防ぎ、中止・認証・利用上限の案内後も入力や取得済みOCR本文を保持するようにしました。 - ページのOCRに失敗しても取得済み本文を残し、認証や利用上限の障害時は未処理ページへの反復送信を止め、同じ条件で再開できるようにしました。
2026年10月02日	- ペン・マーカー・レーザーの手ぶれ補正と滑らかな補間を追加し、カーソルを細い破線の円・線幅に合わせた四角へ変更しました。 - レーザーの維持時間（既定0.0秒）と消失時間（既定0.6秒）を設定でき、前の軌跡が消える途中でも次の軌跡を描けるようにしました。 - ページ間隔を0pxに設定できるようにし、横書き文書の横スクロールを左から右の配列とホイール下で右への移動に変更しました。 - 上・下・左・右・センターを独立指定する枠消しと、矩形で囲んだ範囲を白で覆うごみ取りを追加しました。 - ファイル移動をCtrl+Tabへ変更し、右ドラッグによる一時ハンド操作を追加しました。
2026年09月30日	線種パレットの太さの数字とM/mの文字を、背景色に応じて見やすい白または黒で表示するようにしました。
2026年09月30日	注釈パレットとレーザーポインタの初期設定を指定の共通パレットに更新しました。
2026年09月25日	- 英語モードのTranslateで、日本語訳を対象英文より上に表示するようにしました。 - 英語モードのTranslateでウィンドウを縦に広げると日本語訳と対象英文の入力欄も広がるようにし、両方の見出しを太字にしました。 - PDF紙面の右クリックメニュー最下段から英語・古漢・理数・社会モードを切り替えられるようにしました。 - 地歴モードを社会モードに改め、公民分野の学習案内を追加しました。理数モードでは高校の情報も学習対象にしました。 - 理数・社会モードのPDF化で、スナップショット画像をA4縦向きページの左上に配置するよう修正しました。 - 理数・社会モードの操作メニューでPDF化を選んだ際、学習画面を開かずに新しいPDFを作成するようにしました。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年09月24日	- 古漢のAI参照はGeminiで画像から読み取った原文と選択したプロンプトを、一つのテキストとしてコピーする方式に戻しました。 - 理数・地歴のAI参照でも、AIを開いた後に元のメニューから画像とプロンプトを個別にコピーする手順を表示しました。
2026年09月24日	- 古漢のPDF化を、スナップショット画像だけをA4横向きページの右上に置く方式へ変更し、画像の文字起こしなしで利用できるようにしました。 - 理数・地歴を選ぶと自動でスナップショットに切り替わり、PDF化では画像だけをA4縦向きページの右上へ配置するようにしました。 - 古漢・理数・地歴のAI参照で、モードに合う編集可能なプロンプトとスナップショット画像を一緒にコピーできるようにし、画像の文字起こしなしで利用できるようにしました。
2026年09月24日	- 理数モードの数式表示で、ドル記号やLaTeXコードブロックの数式も変換できるようにしました。 - 理数・地歴の問題文整理、資料の読み取り、解法の道筋、理解の確認を「問題解説」にまとめました。 - 理数・地歴に「PDF化」と「AI参照」を追加し、学習内容のPDF保存と編集できる参照用プロンプトのコピーに対応しました。
2026年09月24日	「英文モード」の表示名を「英語モード」に変更しました。 - 理数・地歴の解説と取り込み画像を学習履歴へ保存し、履歴画面で内容を表示できるようにしました。 - 学習履歴を英語・古漢・地歴・理数と開始日・終了日で絞り込めるようにしました。
2026年09月24日	スナップショットで取り込んだ資料画像を解説と一緒に表示し、必要な場合は利用条件と出典を確認できるCC0の参考画像を表示できるようにしました。
2026年09月24日	- 英文モードをオフにしたときは選択表示だけを消し、ボタン名を「英文モード」のまま表示するようにしました。 - 理数・地歴の学習画面とGemini処理ログを、見出しのドラッグで移動し、端や角のドラッグで拡大・縮小できるようにしました。 - 理数・地歴の解説で役立つ図・グラフ・年表・比較表などを、安全なSVGとして表示できるようにしました。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年09月24日	- 理数モードと地歴モードを追加しました。文字選択、または表・図・グラフ・数式を含むスナップショットから、横長の日本語メニューで自己学習支援を使えます。 - 教科・学習段階に合わせ、用語・公式・化学式・事件・思想・年号、問題文の条件、立式・グラフ化や背景・因果・比較の考え方を確認できるようにしました。 3段階のヒント、選んだときだけ表示する解答・解説、理解確認問題、自分の考えへの助言、Web検索、学習メモの保存・PDFへの追加を用意しました。
2026年09月24日	アプリ起動時は英文モードと古漢モードをどちらもオフにし、必要なときに各モードのボタンから有効にできるようにしました。
2026年09月24日	古漢モードの文章保存など画像を使う機能で、サーバーの画面HTMLをGemini応答として受け取り「HTTP 200: サーバー応答を解析できませんでした」となる問題を修正しました。
2026年09月24日	古漢モードの全スナップショット機能で、Geminiの一時的な混雑による画像読取・解説の失敗を待機して自動再試行し、再試行後も失敗した場合は同じ画像から手動で再実行できるようにしました。
2026年09月24日	古漢モードの「保存文章の文と語彙解説」を選ばと、保存文章が空の場合や直前の文章保存が処理中の場合も、保存文章ウィンドウと進行ログを直ちに表示するようにしました。
2026年09月24日	- 英文・古漢それぞれの読解ログをアプリ起動時に新規作成し、ファイル名を「英語読解ログ_年月日時分秒」「古漢読解ログ_年月日時分秒」に変更しました。 - 古漢の保存文章から学習シートを作成する際、選択した読解ログをダウンロードフォルダーを初期位置として保存し、保存後に次の文章保存用ログを新規作成するようにしました。保存を取り消した場合はログを切り替えません。
2026年09月23日	古漢モードの「保存文章の文と語彙解説」を英文のStore→Sheetと同じ保存ログ連携に揃え、文章保存済みのファイルを選んで解説を作り、実行時に次の文章保存用ファイルを新規作成するようにしました。
2026年09月23日	古漢モードのスナップショットで古文・漢文を取り込む際、PDFの列末・段末による改行を除き、画像中の「、」「。」を残して「。」の後で改行するようにしました。
2026年09月23日	- 古漢モードの「保存文章の文と語彙解説」で保存文章ウィンドウと進行ログを選択直後に表示し、画像読取からSheet作成までの進行を確認できるようにしました。 - 文章保存の直後に次のスナップショット機能を選んででも順番に実行し、保存済み漢文を重複追加せず文と語彙の解説に使用できるようにしました。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年09月23日	古漢モードのスナップショットから漢文を読む際、漢字と判読できるルビだけを残し、送り仮名・返り点・記号・タグを全機能共通の原文から除くようにしました。
2026年09月23日	このセッションで追加した日本語OCRの画質補正、Geminiによる再認識、縦書きの段組み・文字レイヤー調整を取り消し、従来のOCR処理に戻しました。古漢モードのスナップショット画像を使う機能は引き続き利用できます。
2026年09月23日	- 古漢モードをスナップショットでの範囲指定に切り替え、右クリックと同じ形式の機能メニューを表示するようにしました。 - 古漢の各機能で選択範囲の画像をGeminiへ送り、画像から読んだ原文と画像を使って現代語訳・語句解説・文法解析・逐語読解を行います。文章保存・PDF化・AI参照・保存文章の解説にも画像から読んだ原文を使用します。
2026年09月23日	- 日本語縦書きOCRで長い罫線を境に本文と設問を別々に認識し、ルビや送り仮名があるページの列の混在を減らしました。 - 縦書きの一括OCRなどで、文字選択用の枠を縦列に合わせて配置し、極端に大きい文字枠とコピー時の文字ごとの改行を抑えました。英文OCRの処理は変更していません。
2026年09月23日	古漢モードの現代語訳と語句解説を、見出しや箇条書きなどのリッチテキストで表示するようにしました。
2026年09月23日	- 日本語OCRに背景むら・コントラスト補正を追加しました。英文OCRは従来の処理を維持します。 - 日本語のページ・選択範囲をGeminiで再認識し、元画像と照合・修正してから反映できるようにしました。 - 古漢モードの「保存」を「文章保存」、「学習シート」を「保存文章の文と語彙解説」に変更しました。 - 現代語訳・語句解説と、その再翻訳・再検索にGemini応答ログを追加しました。
2026年09月23日	- 古漢モードを追加しました。古文・漢文を選択して、現代語訳、語句解説、文法解析、逐語読解を利用できます。 - 古漢モードの保存、PDF化、AI参照、学習シートを日本語の名称で利用でき、原文の保存ログとAI参照の設定を英文用と分けました。 - 古漢モードではListenを表示せず、読み上げ機能を使用しないようにしました。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年09月22日	• Ctrl+C+Cで開く読解アシスタントLiteを削除し、PDF本体の英文選択機能へ統合しました。 • 学習履歴画面を追加し、Sheetの語彙・文章とAnalyze・Directの内容をGoogle Driveへ保存して表示・削除できるようにしました。 • 読解ツールの履歴画面に表示しない語彙・文章のCSV・TXT・Markdownを履歴用Google Driveフォルダーへ保存しないようにしました。 • 読解機能の語彙・文章Sheet出力では、従来どおりCSV・TXT・Markdownも履歴用Google Driveフォルダーへ保存するように戻しました。 • Google認証済みでの起動時または認証完了時に、PDFノートブックの学習履歴用Google Driveフォルダーを自動で準備するようにしました。
2026年09月19日	• 一括OCRで複数PDFへ検索可能な文字レイヤーを追加し、ページ別の進行状況と中止操作を確認できるようにしました。 • PDF編集後に保存した実ファイルを読み直し、実際のファイル名で新しいタブへ表示するようにしました。 • 英文の翻訳結果で、原文と日本語訳を直接編集し、原文を直した後に再翻訳できるようにしました。 • 縦横一杯表示中に画面左端へマウスを移動すると、ファイル・ページ・目次の左パネルを一時表示するようにしました。
2026年09月18日	• 複数のPDFをGoogle Docsへ変換し、Google Driveの保存先を選んで出力できるようにしました。 • 英文難易度を0から100で測定し、基準表、教材レポート、結果テキストを利用できるようにしました。